

「渋谷で感じる海」プロジェクト概要

目の前に見えなくても、渋谷は海とつながっています。

都市は自然と無関係と考えがちですが、実際は都市こそが自然に大きな影響を与えているのです。

本プロジェクトでは、アート作品展示、ワークショップ、プランクトン図鑑、トークセッション、コラボカフェ、サイネージアクションの6つの取り組みを通して、都市と海の繋がりを考えるきっかけを提供しました。

アンケートについて

地下空間に巨大プランクトンアートを展示。そのまわりの柱に海底に漂うプランクトン画像を掲示。

柱3ヶ所のQRコードからアンケートフォームにリンクさせ、意識調査を行いました。

主催 | 一般社団法人SWITCH

調査設計協力 | 日本電気株式会社・総合地球環境学研究所

開催日時 | 2024年8月16日(金)～8月31日(土)

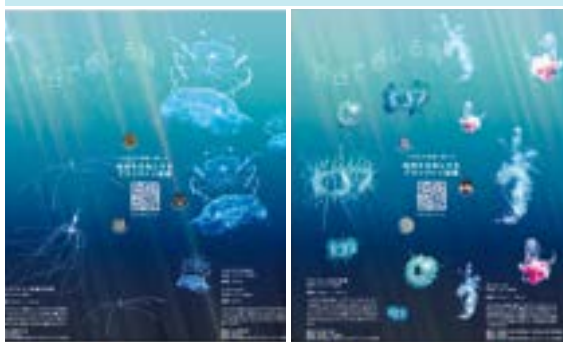
場所 | 渋谷駅東口地下広場

実施形態 | オンライン Google Form

参加者合計 | 135人



柱画像

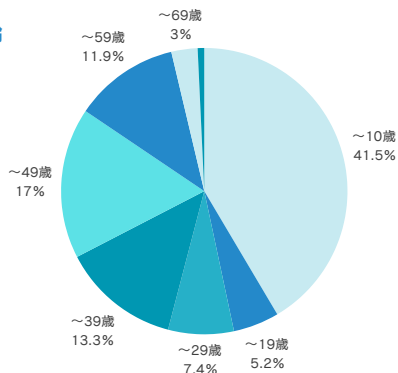


プランクトン図鑑サイトより
アンケートにアクセス

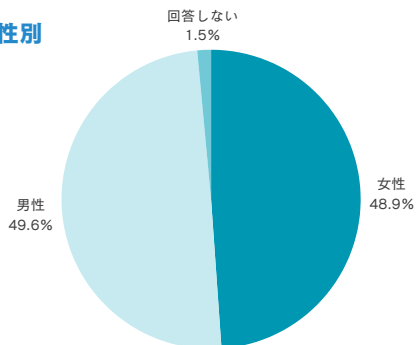


アンケート参加者について

年齢

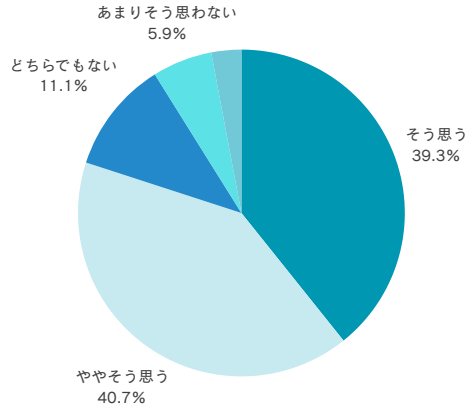


性別

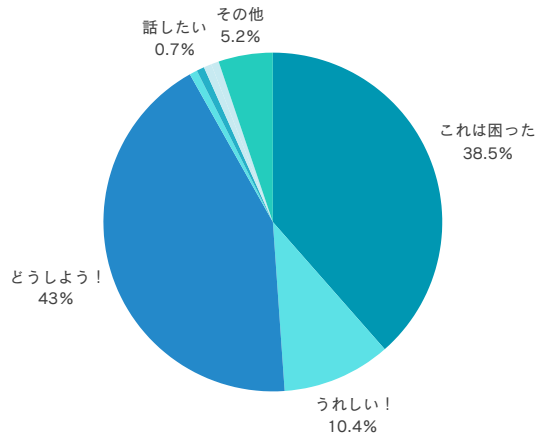


アンケート回答結果

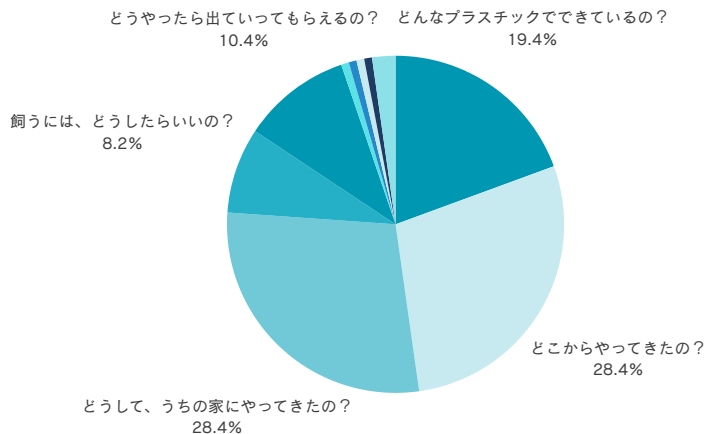
Q1.
サステナブル化に向けた行動は
日常生活で望めばすぐにできる



Q2.
もしも、帰ると、あなたの
家に「巨大なプラスチック
のプランクトン」がいたと
します。どう思いますか？
一つだけ選んでください。

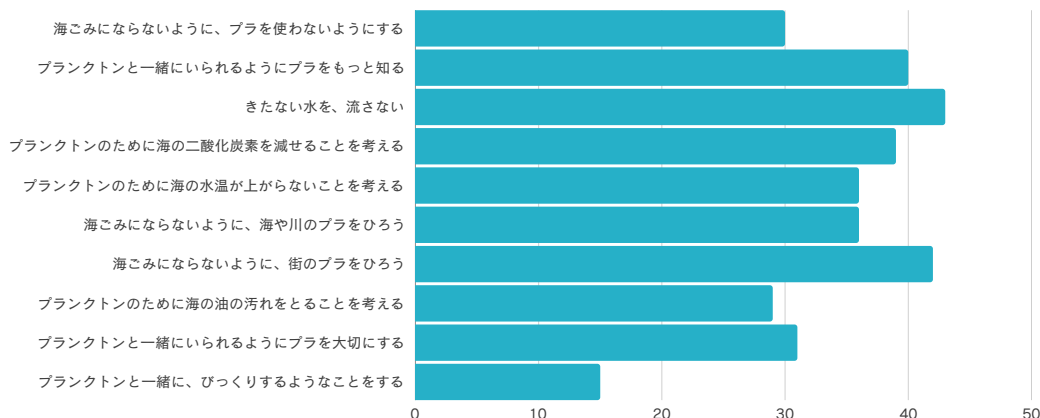


Q3.
その「巨大プラ・プランクトン」に、何か質問できると
すると、どれにしますか？
一つだけ選んでください。



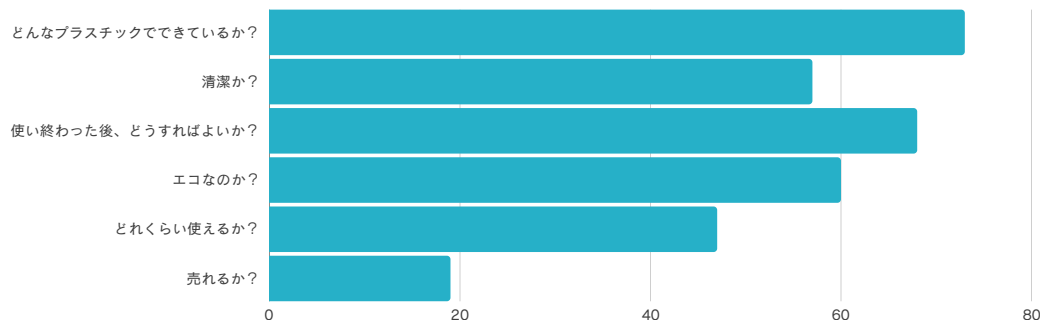
Q4.

あなたの家に来たプランクトンのお困りごとについて、あなたができることはどれですか？「できるぞ！やるぞ！」というものをすべて選んでください。



Q5.

その「巨大プラ・プランクトン」が帰るとき、お礼に、プラスチック製のボトルを置いていきました。使う場合、あなたは何を知りたいですか？知りたいことを、3つ選んでください。



アンケート回答まとめ

- ・回答者は小学生などを含む「～10歳」をはじめとした若者から多く集まった。
- ・サステナブル化に向けた行動を日常的に取れると回答した人が80%以上を占め、回答者は環境問題に対する取り組みに、強い関心を持っていることが伺えた。
- ・巨大なプラスチックのプランクトンが出現したことに対して、「どうしよう」(44.5%)「これは困った」(38%)など当惑を示す回答が多かった。
- ・質問したいこととして「どこからやってきたの」(30.3%)「どうして、うちの家にやってきたの」(25%)が目立ち、状況を明らかにしたい様子が伺える。
- ・プランクトンのための行動として40%程度ができる！と答えた一方で「プラを大切に使う」はやや回答率が低く、商品を長期的に使う観点が他のアクションに比べてできる！と考えられていない可能性がある。
- ・お礼でもらったプラスチック製ボトルに関して、約70%の人が「どんなプラスチックでできているか？」を知りたいと回答しており、未知の製品が何からできているかについて高い関心を持っていることがわかる。

SWi:TCH

地球ひとつで暮らしていくために

SWi:TCH



一般社団法人 SWi:TCH

SWi:TCHは、「地球1つで暮らしていく」ために
若者と大人世代が共創するプラットフォームです。

公式サイト: <https://switch.bio/>
お問合せ: contact@switch.bio

調査設計協力

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気株式会社



総合地球環境学研究所

豊田通商株式会社

豊田通商株式会社